

「三島大里学園の弓矢踊り・面踊り伝承活動の取組」

1 学校名

三島村立三島大里学園

2 学年・人数

1年生から9年生（計17人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

5月14日（木）	2校時	本校集会室
9月25日（金）	2校時	本校集会室
10月5日（月）	2・3校時	大里地区健康広場
10月6日（火）	1～3校時	大里地区健康広場
10月7日（水）	3校時	大里地区健康広場
10月8日（木）	3校時	三島大里学園体育館

(2) 発表の日時・場所

10月11日（日）大里地区・三島大里学園大運動会（大里地区健康広場）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

ゆみやおど
弓矢踊り，めんおど
面踊り

(2) 由来

① 弓矢踊り

1584年，島原北部の沖田畷において，龍造寺隆信と，侵攻を受けた有馬晴信，有馬の援軍に向かった島津家久との間で勃発した戦をモチーフとしている。この時，家久の子豊久は15歳で参戦し，見事な若武者ぶりを披露した。その勇姿を表したものである。

② 面踊りは，五穀豊穰と子孫繁栄，生産を祈る踊りで，手にはメシゲ（しゃもじ）と播り粉木を，腰にはひょうたんを持ち，生産を意味している。

(3) 構成等

① 弓矢踊り

烏帽子をかぶった島津軍と兜をかぶった龍造寺軍の二列にわかれ，鉦と太鼓の音で入場，各列先頭の二人が島津豊久役と龍造寺隆信役となり，地唄手の唄に合わせ，鉦や太鼓で調子を取りながら踊る。

② 面踊り

ボロをまとい，ビロウの葉，シュロの皮，ガジュマル根等で身を飾り，腰には瓢箪を下げ，顔には鬼，おかめ，ひよっこ，かっぱ等の面をかぶり，右手にメシゲ，左手に播り粉木を持ったメンが二組に分かれ，奇抜なかけ声を出しながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

地唄手（ジュウテイ）の方々3人を、「ふるさと先生」として学校に来ていただき、踊り方等のご指導を依頼している。衣装合わせや踊り揃えなど、子ども会や地区の協力もいただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 前期・後期課程の弓矢踊りと面踊りの練習の時間を合わせた。
- (2) 前期・後期課程合同の練習時、「ふるさと先生」を招聘し指導をお願いした。
- (3) 弓矢踊りで使う弓・矢を修理した（弓・矢の装飾を新しく行った）。
- (4) 運動会に向けての最後の練習で実際の衣装を着けて練習できるよう保護者に着付けを文章で依頼した（踊り揃え）。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



弓矢踊り：先輩から後輩へ指導



面踊り：地唄手さんの指導



面踊り：運動会本番の様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【生徒】 最初は難しいところもあったけれども、練習を重ねていくうちに自信がついて、本番で堂々と踊ることができた。大好きな大里の伝統をしっかりと引き継いでいきたい。

【職員】 地元の子どもたちはもちろん、しおかぜ留学生の子どもたちも意欲的に取り組むことができた。踊るだけではなく、背景にある歴史などを学ぶことも必要なのでより力を入れていけたらと思う。地唄手さんだけでなく、地元の大人も参加しての踊りになれば、子どもたちの意欲喚起にも繋がりそうである。